

彩の国さいたま人づくり広域連合 研修紹介（令和3年度新規研修）

～「新しい生活様式」を業務に活かす～

オンライン活用研修（県・市町村共同）

1 研修の背景

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な場面で非対面・非接触のニーズが高まるとともに、コミュニケーション手法としてオンラインの活用が加速するなど、人々の生活様式に変化が生じました。

テレワークやオンラインサービスの活用といった「新しい生活様式」を、新型コロナウイルスの収束後も定着・発展させることで、多様な働き方・暮らし方を選択できるようになります。

より便利で豊かな「新しい生活様式」を実現させるためには、デジタル技術を活用し、アナログではできなかった課題の解決や新しいサービスの創出につなげる「デジタルトランスフォーメーション(DX)」が求められます。

そこで、県内自治体においてDXを実現させていくために必要な知識や参考となる事例を学ぶことを目的として「～『新しい生活様式』を業務に活かす～オンライン活用研修」を実施しました。

2 研修の概要

(1) 位置付け・対象者

県・市町村共同の特別研修に位置付け、対象者は職位に関わらず「業務におけるオンライン活用に関心のある職員」としました。

(2) 実施方法

Web会議ツールZoomによるオンライン実施

(3) 講師

PRDESIGN JAPAN（株）代表取締役 佐久間智之氏を講師に迎えました。佐久間氏は元三芳町職員で、当時担当していた広報紙が全国広報コンクール

内閣総理大臣賞を受賞するなど、行政広報の分野で大きな実績を残しました。また、現在は複数の自治体の広報アドバイザーや自治体DX推進アドバイザーを務めています。

(4) 日程・カリキュラム

日程	内容
【第1回】 令和3年 8月18日 9:00～12:00	・社会の変化と新しい生活様式、DXの推進 ・オンラインを活用してできること（オンライン活用事例） ・オンラインでの情報発信のポイント（DX広報とニューノーマルな情報発信）
【第2回】 令和3年 8月18日 13:30～16:30	・これからのオンライン活用と課題 ・これからの公務員の働き方とは

3 研修の実施

(1) 事前準備について

Zoomの操作方法等のマニュアルを作成し、事前に受講生へ配布しました。



▲マニュアルの抜粋：

表示名の変更やマイクの設定方法を記載

また、「新しい生活様式」の捉え方やDXによって創出したいサービスは、それぞれの自治体の現状や課題によって様々であることから、受講生が本研修に求めるニーズを把握するために事前アンケートを実施しました。

その結果、「オンラインツールを活用する際の課題」「オンラインツールで実現すること、充足しないこと」「オンライン活用の事例」へのニーズが高いことが分かりました。加えて、実際に業務でオンラインを活用している受講生からは、これまで集合で実施していたセミナーやイベントを効果的にオンラインで実施するにはどうしたらいいか、という質問が複数寄せられました。

そこで、アンケートの結果を佐久間講師と共有し、講義の中でそれらのニーズに応えていただきました。

(2) 研修当日について

研修前半は、業務の見直しの基本として、手段を目的化しないことの大切さを繰り返しお話いただきました。特にDXを実現させるためには、デジタル化・オンライン化を目的にするのではなく、手段に位置付けることが重要であることを、事例や御自身の経験談を通じて説明していただきました。

研修の後半では、各職場において解決したい課題や提供したい価値を可視化するためのトレーニングとして、「なぜ」を深掘りするカリキュラムを用意していただきました。例えば講師が「大学の授業をオンライン化するメリットは？」と問いかけ、受講生はチャットで意見を出し合いました。

その他、受講生からニーズのあった、セミナー・イベント等におけるオンラインならではの工夫や参加者を飽きさせないためのコツ、オンライン活用の事例として深谷市の「書かない窓口」について紹介していただきました。

講義中、講師から受講生へ問いかけ、受講生がチャットで回答する場面が用意されたことで、オンライン実施であっても参加型の研修が実現しました。

4 まとめ

本研修はDXを実現させていくために必要な知識や参考事例を幅広く学ぶことを狙いとしていました。研修後のアンケート結果から、受講生が本研修に期待していた内容は4つに大別できました。

研修に期待すること	受講生のコメント(抜粋)
①DXオンライン活用全般、他自治体の事例	自治体DXが本格的に動き始め中、先進的な事例や具体的な進め方などを知りたかった
②セミナー、会議を効率的にオンライン化するポイント	今後開催する会議や研修をオンラインで行う際の参考にしたい、他にどのようなことができるのか知識を得ようと臨んだ
③社会の変化に対応する考え方や知識	社会の変化に対応できる職員になりたいと思い参加した
④広報・情報発信力の向上	オンライン活用における情報発信のポイント、課題について、活用事例、使い方を学びたい

本研修のカリキュラムでは、受講生が期待する内容を網羅することができ、有意義であったという声が多数寄せられました。

オンラインの活用事例とともに、デジタル化・オンライン化は万能薬ではなく、課題解決の手段であるということを可視化して学ぶことができ、受講生が各職場で業務を見直す際に即座に役立てられる内容であったと考えます。

一方で、講義の時間上、受講生が本研修に期待する各内容の全てを掘り下げることや受講生同士の意見交換はできませんでした。そのため、業務のオンライン化とDXの実践を促すためには、内容を細分化・専門化した研修の必要性を感じました。

この結果を踏まえて令和4年度研修においては、より有効な研修となるよう、更なる改善を図っていきたいと考えています。